

1 修士論文審査基準

(1) 題目や目的の適切性について

- ① 問題を意識し、目的や目標が明確か。
- ② 問題意識とその背景が適切に目的に反映されているか。
- ③ 題目や目的が論文内容に正確に反映されているか。
- ④ 研究目的が心理臨床学の研究や実践に有用か。

(2) 先行研究の吟味について

- ① エビデンスとなる先行研究の整理と問題点が明確に指摘されているか。
- ② 先行研究と仮説設定の関係性に言及しているか。
- ③ 論文の独創性(originality)が明示されているか。
- ④ 先行研究の国際潮流を把握しているか。
- ⑤ 内外研究の異同について留意しているか。

(3) 研究方法の適切性について

- ① 研究方法の選択が適切になされているか。
- ② 研究方法の妥当性と信頼性が確保されているか。
- ③ 研究対象の選定が適切になされているか。
- ④ 選択した研究対象と方法に対応した分析処理がなされているか。
- ⑤ 研究方法のうち、調査研究や実験法、観察法、面接法など、必要とする研究方法が選択されているか。

(4) 論文の展開の適切性について

- ① 論理構成において散漫な印象を与えないか。
- ② 目的・方法・結果・考察の一連の論旨が一貫しているか。
- ③ 記述はわかりやすいか。
- ④ 研究成果の要点と限界について明確化されているか。

(5) 表示の適切性について

- ① 標題は適切か。
- ② 用語の使い方は適切か、概念定義が明確か。
- ③ 誤字・脱字がないか。

④ 図表は適切か。図表には適切なタイトルが付記されているか。

⑤ 文献の表示は適切か。二次引用、無断引用がないか。

(6) 倫理について

① 研究方法が倫理上問題にならないかが検討・吟味されているか。

② 研究対象や被験者に関する個人情報やその処理について十分に配慮されているか。

③ 研究実施に際して、十分な説明と了解が得られているか。

修士論文の評価は上記を勘案し、主に独創性、有用性、精緻性の3つの視点から行い、以下の4段階とする。

優 優れた修士論文である。

良 良好な修士論文である。

可 いくつかの問題点はあるが、修士論文として認定できる。

不可 修士論文としての水準に達していない。

2 修士論文最終試験実施要項

(1) 提出された修士論文の内容についての質疑応答。

(質疑に対して的確な回答がなされているか。)

(2) 論文作成にあたって、どのような研究を行ったかについての質疑応答。

(修士論文に関連する研究についての知識が十分であるか。)

(3) 研究成果のさらなる発展の可能性についての質疑応答。

上記の観点から最終試験を行い、以下の4段階で評価する。

優 優れた研究が行われ、独力でさらなる研究の発展が期待できる。

良 良好な研究が行われたと認められる。

可 いくつかの問題点はあるが、一定水準の研究が行われたと認められる。

不可 適切な研究が行われたとは言い難い。

なお、修士論文審査及び最終試験のいずれか又は両者が不可であれば、不合格とする。

附 則

この審査基準及び最終試験実施要項は平成26年12月9日から施行する。

1 修士論文審査基準

(1) 題目や目的の適切性について

- ① 問題を意識し、目的や目標を明確にしているか。
- ② 題目・目的は、論文内容を反映されているか。

(2) 先行研究の吟味について

- ① 先行研究の整理と問題設定は適切になされているか。
- ② 論文の独創性(originality)は、明確に記述されているか。

(3) 研究方法の選択・実行の適切性について

- ① 研究方法の選択が適切になされているか。
- ② 研究対象の選定が適切になされているか。

(4) 問題解明の的確さについて

- ① 選択した研究対象と方法に対応した分析がなされているか。
- ② 研究成果及び先行研究を踏まえた考察がなされているか。
- ③ 今後の研究課題が適切に記述されているか。

(5) 論文の展開の適切性について

- ① 論文内容は論理的に構成されているか。
- ② 論理構成に一貫性はあるか。

(6) 表示の適切性について

- ① 注記は適切か。
- ② 誤字や脱字がないか。
- ③ 参考・引用文献の表示は適切か。
- ④ 字数は適切か。
- ⑤ 図表は見やすいか。

(7) 倫理について

- ① 研究方法が倫理上問題にならないかが検討・吟味されているか。
- ② 研究対象や被験者に関する個人情報やその処理について十分配慮されているか。
- ③ 研究実施に際して、十分な説明と了解が得られているか。

修士論文の評価は上記を勘案し、主に独創性、有用性、精緻性の3つの視点から行い、以

下の4段階とする。

優 優れた修士論文である。

良 良好な修士論文である。

可 いくつかの問題点はあるが、修士論文として認定できる。

不可 修士論文としての水準に達していない。

2 修士論文最終試験実施要項

(1) 提出された修士論文の内容についての質疑応答。

(2) 論文作成にあたって、どのような研究を行ったかについての質疑応答。

(修士論文に関連する研究についての知識は十分であるか。)

(3) 研究成果のさらなる発展の可能性についての質疑応答。

上記の観点から最終試験を行い、以下の4段階で評価する。

優 優れた研究が行われ、独力でさらなる研究の発展が期待できる。

良 良好な研究が行われたと認められる。

可 いくつかの問題点はあるが、一定水準の研究が行われたと認められる。

不可 適切な研究が行われたとは言い難い。

なお、修士論文審査及び最終試験のいずれか又は両者が不可であれば、不可とする。

附 則

この審査基準及び最終試験実施要項は平成26年12月9日から施行する。